

漁業担い手の確保・育成

大島支庁 林務水産課

【背景・目的】

当支庁管内における平成20年現在の漁業者数は1,287名で、20年前の昭和63年と比較すると26.5%減となっており、65歳以上の者が占める割合は31.4%で、20年前の13.7%と比較すると急速に高齢化が進んでおり、漁業担い手の確保・育成が急務となっている。

【普及の内容・特徴】

1 担い手の確保・育成

漁業就業希望者の問い合わせ等に対し、平成14年度より県が実施している「ザ・漁師塾」や、平成21年度より県漁連が国の支援を受けて実施している漁業担い手確保・育成対策事業等を始めとする情報を提供するとともに、就業希望者と県漁連・漁協等の関係機関及び指導者との調整を行った。

2 食農教育支援

次世代の水産業を担う人材を幅広く確保すべく学校教育の分野において、小中学校と行政、漁協等が協力し、関係機関が一体となった効率的な水産業体験学習等の実施を推進した。

【成果・活用】

1 担い手の確保・育成

管内での漁業担い手確保・育成対策事業による研修希望者3名に対し、県漁連・漁協と関係機関・指導者との調整を行い支援した結果、2名が漁業への就業を目指した研修の受講に至った。

2 食農教育支援

(1) 奄美市立小宿中学校 平成22年8月20日実施

実施内容：水産業に関する出前授業を実施。

(2) 瀬戸内町立篠川小学校 平成22年11月5日

参加者：生徒10名，教員4名，保護者17名

実施内容：地元養殖業者を講師に招き，地元の養殖業に関する授業を実施し，また，瀬戸内町内で獲れた地魚を用いたさばき方体験を実施した。

(3) 赤木名中学校 12月9日実施

参加者：2年生10名他教職員

実施内容：地魚を用いたさばき方教室(笠利漁業集落の集落活動と連携して実施)

(4) 赤木名中学校 3月3日実施

参加者：3年生22名他教職員

実施内容：地魚を用いたさばき方教室(笠利漁業集落の集落活動と連携して実施)

【その他】

1 担い手の確保・育成

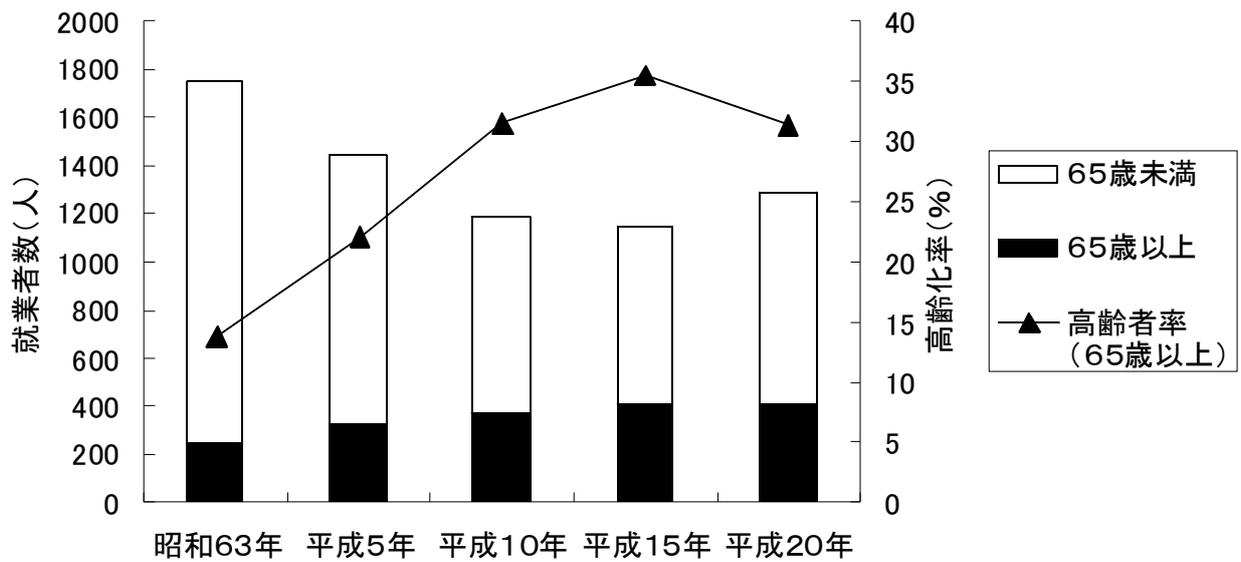
研修受講に至った2名のうち1名が途中で研修を辞退する結果となった。漁業の現場と就業希望者との間には多少なりともギャップがあるものと考えられ，このような研修の途中辞退を防ぐためにも，体験的な研修を踏まえ適性を自己判断させる必要があると考えられた。

2 食農教育支援

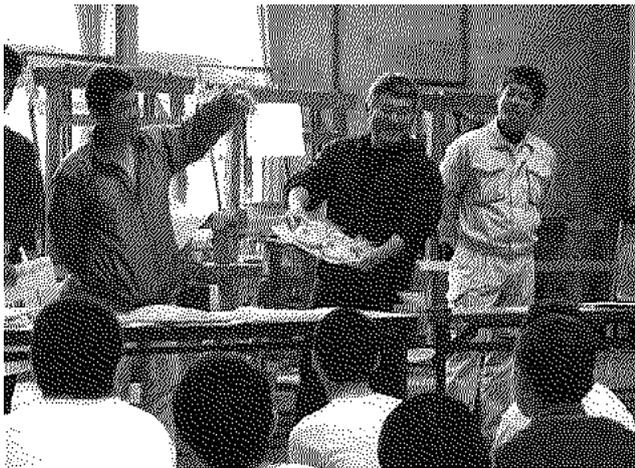
地元の養殖業者による出前授業や，地魚を用いたさばき方教室の実施により，地元で行われている漁業のことや，水揚げされる魚種等について子供達の理解が深まり，水産業を身近なものとして感じさせる情報発信の効果があったものと考えている。

また，魚のさばき方体験では，これまで魚にさわる機会のなかった子供達が，この体

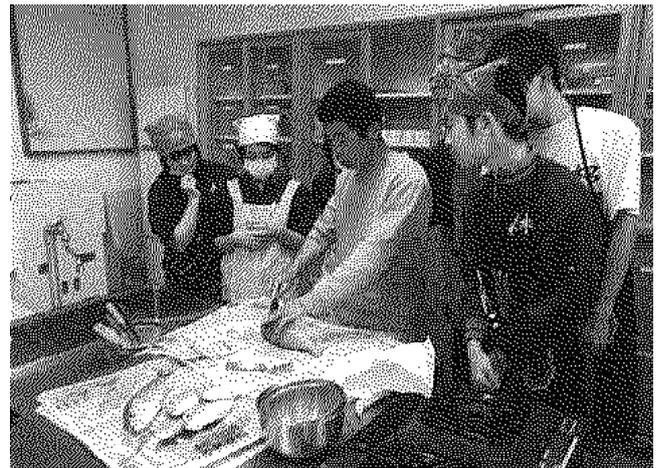
験をきっかけに魚料理に興味を示すなど魚食普及の効果もみられた。



大島支庁管内における漁業就業者数と高齢者率の推移



漁業者による地魚の紹介



さばき方の実演



さばき方の指導

<講師の方々へ感謝の気持ちを込めて>
 今日、私たち3年生のためにわざわざ学校まで来て魚のさばき方を教えてくださり、本当にありがとうございます。
 私は、魚をさばいたのは初めてで、魚はくさいからさばいたくないと思、
 てたけど、今日の授業で「魚をさばくのが」とも楽しいということが分かりました。
 もうすぐ「卒業だ」と最後の調理実習でとても良い体験が出来ました。
 本当にありがとうございました。

感想文の一例